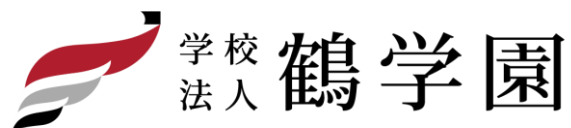


学校法人鶴学園
第Ⅲ期中期経営計画
(2026～2030年度)

人を想う、どこまでも。



建学の精神

教育は愛なり

“Education is Love.”

鶴虎太郎の教育精神を表したこの言葉を、建学の精神として定め継承してきました。児童・生徒・学生を心から愛し、愛にもとづく教育をされ、愛を教育の本質とされた校祖の教育の精神を永遠の目標とし、その原点を見失わないよう、私たちは、これからも教育に取り組んでいきます。

教育方針

常に神と共に歩み 社会に奉仕する

“Always Walk Together with God and Serve Humanity”

人格の完成を目指し、心身ともに健康にして己を制御し、「常に神と共に歩み社会に奉仕する」人間の育成が、鶴学園の教育方針です。さまざまな問題が山積みし、教育の真価が問われようとしている今こそ、私たちは、この教育方針を堅持し、社会に貢献できる教育を展開していきます。

パーパス



学校法人
鶴学園

人を想う、どこまでも。



広島工業大学

未来の、その先をつくる。



広島工業大学
専門学校

好きをスキルに、その先へ。



広島工業大学
高等学校

学ぶ。創る。挑む。



広島なぎさ
中学校・高等学校

知性と感性、夢へのチカラ。



なぎさ公園
小学校

とことん、ほんもの。

はじめに

学校法人鶴学園は、広島において、60余年にわたり私学教育の発展に尽くした校祖である鶴虎太郎の遺訓「教育は愛なり」を継承し、四男鶴襄が、1956（昭和31）年、広島市西蟹屋町に「広島高等電波学校」を創立したことに始まります。以来、この教育理念のもとに独自の教育を展開し、小学校から大学まで6つの学校を擁する総合学園に成長することができ、2026（令和8）年2月23日には70周年を迎えました。

現在、私学を取り巻く環境は、少子高齢化による入学人口の減少、ガバナンスの強化、グローバル化の進展、生成AIの進化など学園運営、学校運営の大きな転換点になっております。このような変化の激しく、予測困難な時代においても「選ばれ続ける学園」になるために、「学校法人鶴学園第Ⅲ期中期経営計画」を策定いたしました。

「学校法人鶴学園第Ⅲ期中期経営計画」を策定するにあたり、2040年も選ばれ続ける学園であるため「学校法人鶴学園長期ビジョン」も同時に策定いたしました。

長期ビジョンでは、建学の精神「教育は愛なり」、教育方針「常に神と共に歩み社会に奉仕する」、鶴学園の存在意義であるパーパス「人を想う、どこまでも。」を実現するため、目指す姿として「ボーダーレスに“学び方を学ぶ”力を育む鶴学園」「広島を支え、中四国を導き、日本を元気にする鶴学園」「挑戦し、変化を続ける鶴学園」という教育、地域社会、経営基盤の3つの目指す姿を定めました。この目指す姿に、「交流/協力」「イノベーション」「持続可能性」「多様性/グローバル化」の4つの視点を掛け合わせることで、より、特色ある学びを推進してまいります。

この度策定した長期ビジョン、中期経営計画を学園全体で遂行することで、更なる発展を遂げ、中四国のNo.1の私学を目指し、多くの皆様から「選ばれ続ける学園」として、社会に貢献してまいります。

本計画に対し、皆様のより一層のご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

2026年4月1日

学校法人鶴学園
理事長・総長 鶴 衛

目次

1	長期ビジョン	P 5
2	各学校及び法人局の中期経営計画	P 7
	① 広島工業大学	P 9
	② 広島工業大学専門学校	P11
	③ 広島工業大学高等学校（全日制課程）	P13
	広島工業大学高等学校（通信制課程）	P15
	④ 広島なぎさ中学校・高等学校	P17
	⑤ なぎさ公園小学校	P19
	⑥ 法人局	P21

1.長期ビジョン

本学園は、建学の精神と教育方針を原点として、ブランディング事業を通じて私たちのパーパス（存在意義）を定めました。そのパーパスが、「人を想う、どこまでも。」です。

創立以来、私たちは、一人ひとりを丁寧に見つめ、可能性を見つけぬき、個性的な学びを通してその素質を磨き続けてきました。決まった方向へ導くのではなく、人を想う心を教育の中心に据えてきたことこそが、私たちの歩みそのものです。

一方で、少子高齢化をはじめとする社会環境の変化により、学校法人を取り巻く環境は今後さらに厳しくなることが想定されます。だからこそ私たちは、2040年まで選ばれる学園であることを目標に、長期ビジョンを策定しました。

この長期ビジョンでは、教育、地域社会、管理運営の3つの観点から「目指す姿」を設定しています。それぞれの目指す姿の具体的な内容については図1を参照してください。また、これら3つの目指す姿が相互に関連しながら学園の価値を高めていく関係性については、図2に示しています。

私たちは、これらの目指す姿を共通の指針とし、変化の時代においても社会から信頼され、選ばれる学園を目指してまいります。

図1 長期ビジョン“2040年も選ばれる学園であるために”

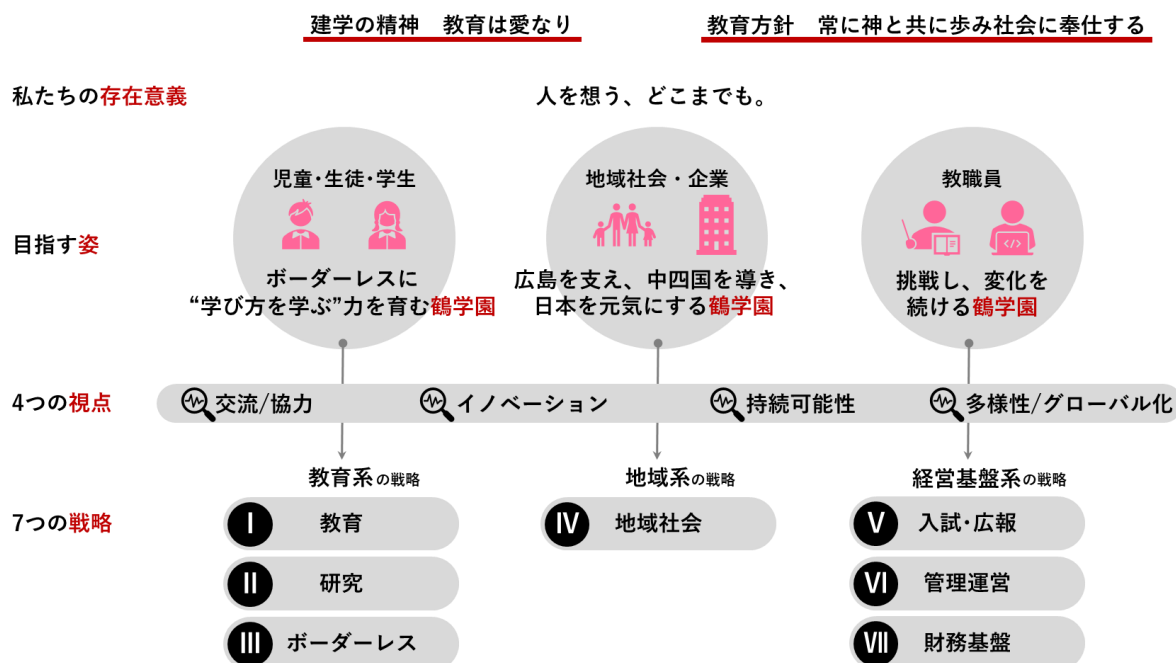


図2

“3つの目指す姿”の関係性



児童・生徒・学生 × 教職員

- ・個別指導や学習支援の充実
- ・指導方法の開発/授業改善のためのフィードバック提供
- ・課外活動や学校行事など楽しい学校生活の共創 等々

児童・生徒・学生 × 地域・企業

- ・インターンシップや職場体験の実施
- ・地元企業によるキャリア講話や技術指導
- ・地域課題をテーマにした探究学習 等々

教職員 × 地域・企業

- ・共同研究の実施
- ・地域産業と関連の深い教育プログラムの開発
- ・地域安全・防災活動の連携 等々

児童・生徒・学生 × 地域・企業 × 教職員

3者相互で補完し合い、“学び”の機会を作る

図3

長期ビジョンと各種計画との関係性

建学の精神 教育は愛なり

教育方針 常に神と共に歩み社会に奉仕する

未来の、その先をつくる。

どこどん、ほんもの。



人を想う、どこまでも。
学校法人 **鶴学園**

好きをスキルに、その先へ。

学ぶ。創る。挑む。

知性と感性、夢へのチカラ。

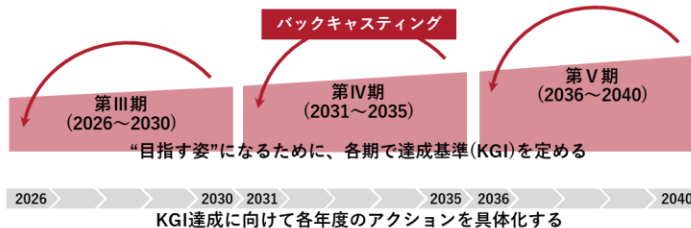
長期ビジョン

“目指す姿”の明確化。実現に向けて教職員全体でチャレンジする方向性を統一。

中期経営計画

事業計画

教職員



目指す姿
(2040年度)

様々な重要課題

短・中・長期(事業計画/中期経営計画/長期ビジョン)の視点で各ゴールを意識して取組む

2.各学校及び法人局の中期経営計画

本学園では、学園全体のパーパスである「人を想う、どこまでも。」に加え、各設置校それぞれの教育の特色や価値を分かりやすくするため、設置校ごとのパーパスを定めています。

学園として共有する想いと、各校が培ってきた独自の特色ある教育の双方を大切にすることが、本学園の強みです。

長期ビジョンに掲げた三つの目指す姿は、学園パーパスと各設置校のパーパスを掛け合わせることで実現していくものです。学園全体としての方向性と、各設置校の個性的な取り組みが響き合うことで、持続的な価値創出を目指しています。

第Ⅲ期中期経営計画の策定にあたっては、長期ビジョンの実現に向けた具体的な道筋として、「交流・協力」「イノベーション」「持続可能性」「多様性・グローバル化」の四つの視点を踏まえて検討を行いました。これらは、教育、地域社会、管理運営のすべてに共通する横断的な視点です。

また、戦略については、第Ⅱ期中期経営計画を踏まえつつ見直しを行い、図4のとおり整理しました。整理した7つの戦略それぞれについて、2030年度までの5年間で積極的に取り組んで行く、重点目標と基本項目を設定し、具体的な取り組みとして中期経営計画に取りまとめています。

図4

戦略の整理

■現行							
戦略名	大学	専門	工大高	なぎさ中高	小学校	法人局	
I 教育	○	○	○	○	○	○	
II 研究	○						
III 入試・広報	○	○	○	○	○	○	
IV キャリア	○	○	○(通)				
V 国際化	○	○	○	○	○	○	
VI 地域連携	○	○					
VII 経営・財務	○	○	○	○	○	○	
VIII 学園内連携	○	○	○	○	○	○	

■変更							
戦略名	大学	専門	工大高	なぎさ中高	小学校	法人局	
I 教育	○	○	○	○	○	○	
II 研究	○						
III ボーダーレス	○	○	○	○	○	○	
VI 地域社会	○	○	○	○	○	○	全会計単位で必要な視点
V 入試・広報	○	○	○	○	○	○	
VI 管理運営	○	○	○	○	○	○	
VII 財務基盤	○	○	○	○	○	○	

<変更点>

- ・教育(旧)とキャリア(旧)を教育(新)に統合
- ・入試・広報の戦略番号(Ⅲ→Ⅴ)を変更
- ・国際化(旧)をボーダーレス(新)に名称変更
- ・地域連携(旧)を地域社会(新)に名称変更し、全会計単位に"○"
- ・経営・財務(旧)を管理運営(新)と財務基盤(新)に分化

※管理運営→ヒト・情報、財務基盤→カネ・モノに分類

各学校及び法人局の中期経営計画

建学の精神	教育は愛なり
-------	--------

教育方針	常に神と共に歩み社会に奉仕する
------	-----------------

学校法人鶴学園のパーパス
人を想う、どこまでも。

広島工業大学のパーパス
未来の、その先をつくる。

×

長期ビジョン	
教育	ボーダーレスに”学び方を学ぶ”力を育む鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅰ)教育、(戦略Ⅱ)研究、(戦略Ⅲ)ボーダーレス
地域	広島を支え、中四国を導き、日本を元気にする鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅳ)地域社会
経営基盤	挑戦し、変化を続ける鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅴ)入試・広報、(戦略Ⅵ)管理運営、(戦略Ⅶ)財務基盤

4つの視点
Q交流/協力 Qイノベーション Q持続可能性 Q多様性/グローバル化

長期ビジョンを実現するための重点目標/基本項目(5年間)

戦略Ⅰ：教育	
重点目標	不確実で変化の激しい社会において、AI等の先端技術を基盤として新たな価値を創造し、自ら未来を切り拓く人材を輩出する。そのために、地域社会と一体となった実践的な学びを通して「学び方を学ぶ」力を養うとともに、教育の質向上の仕組みと学びの支援体制を整備し、学生が意欲的に学び続けられる環境を実現する。また、一つの専門にとどまらない分野横断的な知識と視点を身に付け、挑戦と探究を通じて「未来創造力」を育む。
基本項目	(1)専門教育の質向上の仕組みと学びの支援体制の整備 (2)人間形成教育による一人ひとりの強みと魅力の伸長及び挑戦と探究を重ねる力の育成 (3)地域社会と一体化した教育による実践力と主体的に学ぶ力の育成 (4)大学院教育を軸とした分野横断・文理融合的な学びの推進
戦略Ⅱ：研究	
重点目標	工学系の幅広い専門分野を有する本学の特徴を活かし、学内外の多様な連携を通じて学際的・分野横断的な研究を推進、AI等の先端技術を駆使し、社会的課題の解決と新たな価値の創出に貢献する。また、研究に専念できる環境と支援体制を整え、研究成果の社会実装や知的財産の活用を通じて、地域とともに持続的に発展する研究活動を展開する。
基本項目	(1)学際的・分野横断的研究と社会実装の推進 (2)瀬戸内等本学の特色を示す研究推進環境の整備と研究支援体制の強化
戦略Ⅲ：ボーダーレス	
重点目標	国や地域、分野の垣根を越えた新しい価値の創造が求められる社会の中で、多様性と国際性を尊重するキャンパス文化を形成し、教育・研究における国際交流を推進する。これにより、異なる文化や価値観を理解し、グローバルな視点で社会課題の解決及びイノベーションの創出に貢献できる人材を育成する。
基本項目	(1)グローバルな活動に関わる学生への支援 (2)国際性と多様性に富んだ教育・研究環境の実現

戦略Ⅳ：地域社会	
重点目標	持続可能な地域社会を創造する拠点として、自治体・企業・地域住民等の地域の多様な主体が連携できるプラットフォームを整備し、地域課題の解決に挑む。また、教育と研究を地域に開き、幅広い世代が学び合う仕組みを通して、地域とともに未来社会を創造する。
基本項目	(1)地域課題の発掘・共有と共創的解決への取組み強化 (2)地域の幅広い世代に開かれた学びの場の積極的な提供
戦略Ⅴ：入試・広報	
重点目標	教育・研究・地域社会との連携を通じて社会からの信頼を高め、世代や立場を超えて共感される広島工業大学のオリジナリティを確立する。そのために、成果だけでなく挑戦や成長の過程も発信し、教職員一人ひとりがその担い手としての意識を共有する。さらに、高等学校や小・中学校との連携を広げ、多様な学生に開かれた入試を展開し、学びの質と実践力で選ばれる大学を目指す。
基本項目	(1)挑戦と成長の過程を発信する広報活動の重点化とオリジナリティの強化 (2)多様な学生層の受入れを実現する特色ある入試制度と学生生活支援の展開
戦略Ⅵ：管理運営(ヒト・情報)	
重点目標	持続可能な大学運営を支えるため、教育の質向上に向けた学位プログラムのPDCAサイクルの一環としてFDの充実を図る。また、FDそのもののPDCAサイクルを回し、教育改善効果を適切に評価し、カリキュラム改善に資するFD実施体制の見直しを進める。
基本項目	(1)FDを通じた学位プログラムのPDCAサイクルの確立
戦略Ⅶ：財務基盤(モノ・カネ)	
重点目標	競争的資金獲得、産学官民連携、社会人教育、寄付金募集活動などの推進を通じて、授業料以外の多様な収入源を開拓するとともに、支出の選択と集中を図り、将来を見据えた中長期的な財務運営を実現する。また、教育・研究活動計画に連動した中長期キャンパス計画を策定し、計画に基づく整備を推進する。
基本項目	(1)収入機会の拡大と支出の適正化 (2)中長期キャンパス・マスタープランの策定及び運用

建学の精神	教育は愛なり	教育方針	常に神と共に歩み社会に奉仕する
学校法人鶴学園のパーパス		広島工業大学専門学校のパーパス	
人を想う、どこまでも。		好きをスキルに、その先へ。	

×

長期ビジョン	
教育	ボーダーレスに”学び方を学ぶ”力を育む鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅰ)教育、(戦略Ⅱ)研究、(戦略Ⅲ)ボーダーレス
地域	広島を支え、中四国を導き、日本を元気にする鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅳ)地域社会
経営基盤	挑戦し、変化を続ける鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅴ)入試・広報、(戦略Ⅵ)管理運営、(戦略Ⅶ)財務基盤

4つの視点
Q交流/協力 Qイノベーション Q持続可能性 Q多様性/グローバル化

長期ビジョンを実現するための重点目標/基本項目(5年間)

戦略Ⅰ：教育	
重点目標	本校は鶴学園の建学の精神「教育は愛なり」と教育方針「常に神と共に歩み社会に奉仕する」に基づき、これらの教育理念を具現化するために学校のミッションを「学生一人ひとりを大切にし、学生に寄り添った丁寧な教育を展開し、産業界の中核を担う技術者を育成する」と定め、学科ごとにそれぞれの専門性に応じた人材の育成を推進する。 魅力ある専門学校を目指し、学科改編も含め新たな教育課程を研究し創造する。 また、今後「職業実践専門課程」認定校に対して第三者評価が義務化される予定であり、導入に向けた準備をしていく。
基本項目	(1)各学科の合格目標資格の合格率向上 (2)特色ある教育課程の研究・創造 (3)第三者評価導入に向けた準備
戦略Ⅲ：ボーダーレス	
重点目標	我が国の人口減少に伴い、生産労働人口が減少している現状から、本校としては、文部科学省の「外国人留学生キャリア形成促進プログラム」の認定を見据え、日本語学校との連携を強化し留学生受け入れを拡大する。また、シンガポール・ポリテクニク校との交換研修を今以上に活性化させ、学生が多様な文化や価値観に触れる環境を整える。 中途採用が増えつつある社会情勢の中、今後リスキリングが求められる状況となっており、社会人や企業に対するリカレント教育の導入などを研究・創造する。 さらに、鶴学園の強みである専門学校から県内の大学に編入できる制度を拡大し、本校で学び、さらに学びを深めたい学生にその門戸を広げる。 広島工業大学高等学校エンカレッジコースとの連携を強化するため、共同して教育連携プログラムを策定し、エンカレッジコースの行事等に積極的に参加する。
基本項目	(1)留学生の受け入れ拡大 (2)シンガポール・ポリテクニク校との交流拡大 (3)リカレント教育の導入に向けた研究・創造 (4)広島工業大学への編入学推進 (5)広島工業大学高等学校エンカレッジコースとの連携強化

戦略Ⅳ：地域社会	
重点目標	鶴学園の教育方針「常に神とともに歩み社会に奉仕する」を具現化するため、本校は、地域に開かれた学校として、ボランティア活動に積極的に参加するとともに、各学科の特色を活かした活動を地域社会に公開する。また、「産学連携協議会」において出された提案・助言等を、教育活動や学校経営に積極的に反映させて、地域社会から信頼される学校を目指す。
基本項目	(1)地域連携活動の実施 (2)各学科の特色を活かした活動の公開
戦略Ⅴ：入試・広報	
重点目標	資格取得や就職支援の強みなど、本校の教育の魅力を広く発信し、進学先としての信頼を高める。 通信制も含めた高等学校との連携を強化し、オープンキャンパスの改善やオンライン広報等を充実させることにより、安定した入学者の確保を図る。 また、ものづくりに興味を持たせるため、小中学生を対象としたイベントの開催など、早い段階からの専門学校への興味付けを行う。
基本項目	(1)多様な進学希望者を対象としたオープンキャンパス及びデジタル広報の充実 (2)小中学生を対象とした教育体験イベントの開催
戦略Ⅵ：管理運営(ヒト・情報)	
重点目標	本校のミッションである「学生一人ひとりを大切にし、学生に寄り添った丁寧な教育を展開」するために、学生の自己肯定感の向上を図り、退学率の低減に向けて教職員研修を強化する。
基本項目	(1)退学者数の検証と学生支援体制の構築
戦略Ⅶ：財務基盤(モノ・カネ)	
重点目標	安定した入学生の確保に努めるとともに、老朽化した施設・設備や実験実習機器については、法人局と連携して教育環境整備計画を策定し、優先度に沿って整備・更新を進めていく。
基本項目	(1)安定した入学生の確保 (2)教育環境の整備

建学の精神	教育は愛なり	教育方針	常に神と共に歩み社会に奉仕する
学校法人鶴学園のパーパス		広島工業大学高等学校（全日制課程）のパーパス	
人を想う、どこまでも。		学ぶ。創る。挑む。	

×

長期ビジョン	
教育	ボーダーレスに”学び方を学ぶ”力を育む鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅰ)教育、(戦略Ⅱ)研究、(戦略Ⅲ)ボーダーレス
地域	広島を支え、中四国を導き、日本を元気にする鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅳ)地域社会
経営基盤	挑戦し、変化を続ける鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅴ)入試・広報、(戦略Ⅵ)管理運営、(戦略Ⅶ)財務基盤

4つの視点
Q交流/協力 Qイノベーション Q持続可能性 Q多様性/グローバル化

長期ビジョンを実現するための重点目標/基本項目(5年間)	
戦略Ⅰ：教育	
重点目標	広島市の西エリアでの進学実績トップ校を目指すとともに、教育の動向を探りながら社会のニーズに対応した柔軟なコースを設定する。また、部活動を活性化させることで人間力の向上を促すとともに、学校全体の一体感を高める。多様な学びを通じて自らの未来を創造し、仲間とともに挑戦する力を育む。
基本項目	(1)進学実績向上 (2)類型・コースの改組 (3)部活動の推進
戦略Ⅲ：ボーダーレス	
重点目標	広島工業大学との教育連携により、鶴学園オリジナルの高大連携教育をさらに推進させる。 探究活動については、教科や所属の枠を超えた興味関心型の探究学習の充実や異文化理解を深める国際交流を通じて、生徒が自ら課題を発見し、解決する力を養成する。 さらにICTやオンラインを活用した学びにより、海外の学校との協働や交流の機会を広げることで、未来を主体的に切り拓く力を養う。
基本項目	(1)広島工業大学との教育連携の推進 (2)探究活動の充実 (3)海外団体との交流
戦略Ⅳ：地域社会	
重点目標	地域社会との連携により、地域の課題を学びの題材とした探究活動を展開し、生徒が地域の一員として貢献できる実践力を育成する。また、地元企業や自治体、大学との協働により、進路意識の向上と地域定着を促す。さらに、地域行事やボランティア活動への積極的参加を通じて、地域との信頼関係を構築し、地域に必要とされる学校づくりを進める。
基本項目	(1)地域企業との教育連携 (2)地域貢献活動の実施

戦略Ⅴ：入試・広報	
重点目標	学校の魅力を的確に発信する体制を確立する。入試では多様な学力観に基づく選抜を導入し、生徒の個性や意欲を重視した評価へと転換する。広報面では、SNSや動画、地域メディアを活用し、在校生・卒業生を通して学校生活のリアルを伝えることにより共感を生む情報発信を強化する。また、中学校や地域との連携を深め、説明会や体験イベントの質を高める。
基本項目	(1)入試制度の改革 (2)新たな広報媒体の活用
戦略Ⅵ：管理運営(ヒト・情報)	
重点目標	積極的な外部研修会等への参加により教職員の資質・能力を高め、情報を共有することで協働的な組織文化を醸成する。ICTの活用を進め、校務の効率化と情報共有の迅速化を推進する。さらに、働きやすい職場環境づくりと人材確保を両立させ、持続可能で柔軟な学校運営を確立することで、教育の質と組織力の向上を目指す。
基本項目	(1)教職員の資質・能力向上 (2)働き方改革の推進
戦略Ⅶ：財務基盤(モノ・カネ)	
重点目標	教育環境の充実に向けて、新校舎建設や施設・設備の更新を段階的に進め、安全で快適な学習空間を整える。また、魅力ある新コースの設置や充実した施設設備による部活動の活性化等により、安定的な入学者の確保に繋げる。
基本項目	(1)教育活動の充実に向けた新校舎建設

建学の精神	教育は愛なり	教育方針	常に神と共に歩み社会に奉仕する
学校法人鶴学園のパーパス		広島工業大学高等学校（通信制課程）のパーパス	
人を想う、どこまでも。		学ぶ。創る。挑む。	

×

長期ビジョン	
教育	ボーダーレスに”学び方を学ぶ”力を育む鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅰ)教育、(戦略Ⅱ)研究、(戦略Ⅲ)ボーダーレス
地域	広島を支え、中四国を導き、日本を元気にする鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅳ)地域社会
経営基盤	挑戦し、変化を続ける鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅴ)入試・広報、(戦略Ⅵ)管理運営、(戦略Ⅶ)財務基盤

4つの視点
Q交流/協力 Qイノベーション Q持続可能性 Q多様性/グローバル化

長期ビジョンを実現するための重点目標/基本項目(5年間)	
戦略Ⅰ：教育	
重点目標	通信制課程の強みを最大限に生かし、これまで積み重ねてきたエンカレッジコースでの学びが、通信制課程への入学希望者増加期に選ばれる内容にしていく。また、入学者の高校卒業後の未来を見据え、社会的自立に向けた学習活動を発展させる。
基本項目	(1) エンカレッジコースらしい教育内容の充実と発展 (2) 入学時からの一貫したキャリア教育への取組み
戦略Ⅲ：ボーダーレス	
重点目標	学園内の初等中等教育機関及び近隣地域の中学校と連携を密にし、沼田の森の環境を生かした途切れることのない学びを提供する。単位制であることの強みを生かし、学園内の高等学校の生徒が単位修得できる学びを提供する。また、専門学校や大学の学びを取り入れた科目等による単位修得につなげる。
基本項目	(1) 学園内高等学校の生徒による単位修得 (2) 広島工業大学専門学校及び広島工業大学との連携強化
戦略Ⅳ：地域社会	
重点目標	近隣地域に本校生徒及び教職員が近隣地域で行われる行事に参加する。また、本校での行事に沼田の森周辺地域の方が参加できるような関係を築く。
基本項目	(1) 本校での各種行事に、近隣学区の方に参加してもらえる関係作り (2) 近隣地域の行事に積極的に参加できる環境整備

戦略Ⅴ：入試・広報	
重点目標	本校通信制課程の認知度を更に高める。外部広報行事への積極的な参加を継続し、校内で行う広報行事を含めて、中学校3年生、転入学及び編入学希望者の行事参加者の受験率を向上させる。全生徒の希望進路実現に向けて取組むことにより、転入学者数の増加を目指す。
基本項目	(1) 本校認知度向上及びオープンスクール等学校行事への参加生徒数増
戦略Ⅵ：管理運営(ヒト・情報)	
重点目標	全日制及び通信制、両課程において指導できる教職員の育成を目指す。生徒の課程間の異動時に、相互に緊密に連絡を取れる環境を整備する。本校パーパスを教職員自らが実践できるように、自己研鑽する。
基本項目	(1) 教職員の資質・能力の向上
戦略Ⅶ：財務基盤(モノ・カネ)	
重点目標	通信制課程単独での経営の安定化を図る。教育に関わる設備及び備品等に関して、支出の平準化を図る更新計画を作成し、計画的に実施する。
基本項目	(1) 早期の収容定員数確保及び維持 (2) 設備及び備品等の更新計画の作成及び計画的な実施

建学の精神	教育は愛なり
-------	--------

教育方針	常に神と共に歩み社会に奉仕する
------	-----------------

学校法人鶴学園のパーパス
人を想う、どこまでも。

広島なぎさ中学校・高等学校のパーパス
知性と感性、夢へのチカラ。

×

長期ビジョン	
教育	ボーダーレスに”学び方を学ぶ”力を育む鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅰ)教育、(戦略Ⅱ)研究、(戦略Ⅲ)ボーダーレス
地域	広島を支え、中四国を導き、日本を元気にする鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅳ)地域社会
経営基盤	挑戦し、変化を続ける鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅴ)入試・広報、(戦略Ⅵ)管理運営、(戦略Ⅶ)財務基盤

4つの視点
①交流/協力 ②イノベーション ③持続可能性 ④多様性/グローバル化

長期ビジョンを実現するための重点目標/基本項目(5年間)

戦略Ⅰ：教育	
重点目標	パーパス「知性と感性、夢へのチカラ。」に基づき、知性と感性を育み、夢を実現する力を伸ばす教育を進化させ、時代の変化に応じて学びのあり方を見直し、社会や技術の変化に対応できる問題発見・解決能力を育むとともに、その基盤となる言語能力と情報活用能力を育てる。また、主体的・対話的な深い学びを広げ、ICTを効果的に活用し、学びの質を高める。
基本項目	(1)知性と感性を育み、個々の可能性を最大限に伸ばす学びの実現 (2)ICTを効果的に活用し、情報活用能力を育み、学びの質を高める環境づくり

戦略Ⅲ：ボーダーレス	
重点目標	学校や学年の枠を超えた協働的な学びを広げ、一人ひとりの多様性を包摂し、意欲と可能性を引き出す教育を実現する。また、国際交流を通じて、異文化理解を深め、共生の精神と柔軟な課題解決力を育む。
基本項目	(1)学年横断・小中高連携による12年間を通じた協働的な学びの推進 (2)国際交流の深化と異文化理解の促進

戦略Ⅳ：地域社会	
重点目標	地域社会との協働を通じて、社会課題解決力を育む。また地域文化や平和の価値を大切にしながら、交流と協力活動を広げ、持続可能な社会づくりに貢献する。
基本項目	(1)地域文化や平和活動を通じた交流の促進 (2)地域社会との協力活動の推進

戦略Ⅴ：入試・広報	
重点目標	パーパス「知性と感性、夢へのチカラ。」及び「なぎさイズム」の教育理念を、県内外や海外に向けて戦略的に広報活動を展開する。一人ひとりの多様性や可能性を引き出す教育の魅力を発信し、持続可能な生徒募集体制を構築する。
基本項目	(1)広報活動の強化と魅力発信 (2)募集戦略の多様化とグローバル化
戦略Ⅵ：管理運営(ヒト・情報)	
重点目標	学園内外の人的・情報資源を有効に活用し、教育の質と生徒支援体制を高める。特に、学園内各校との連携強化を通じて、教育の継続性・柔軟性を実現する。
基本項目	(1)学園内各校との連携強化
戦略Ⅶ：財務基盤(モノ・カネ)	
重点目標	教育の質と学園運営の持続可能性を支えるため、安定的かつ柔軟な財務基盤を構築する。特に、収入源の最適化と施設整備の計画的実施を通じて、教育環境の充実と学園の将来展望を支える。
基本項目	(1)収容定員の最適化と収入確保 (2)施設・設備投資の計画的実施

建学の精神	教育は愛なり
学校法人鶴学園のパーパス	
人を想う、どこまでも。	

教育方針	常に神と共に歩み社会に奉仕する
なぎさ公園小学校のパーパス	
とことん、ほんもの。	

×

長期ビジョン	
教育	ボーダーレスに”学び方を学ぶ”力を育む鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅰ)教育、(戦略Ⅱ)研究、(戦略Ⅲ)ボーダーレス
地域	広島を支え、中四国を導き、日本を元気にする鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅳ)地域社会
経営基盤	挑戦し、変化を続ける鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅴ)入試・広報、(戦略Ⅵ)管理運営、(戦略Ⅶ)財務基盤

4つの視点
Q交流/協力 Qイノベーション Q持続可能性 Q多様性/グローバル化

長期ビジョンを実現するための重点目標/基本項目(5年間)	
戦略Ⅰ：教育	
重点目標	児童が国際社会で活動できる力を育てるため、基礎的な4つの力を柱に特色ある教育を推進する。学年ごとに自然体験活動を取り入れ、「ほんもの」に触れる中で感性を育てる。読解力に課題のある児童には個別支援を行い、学びを支える。「にんげん」(道徳)の授業で使われる哲学対話を活用し、各々の授業の質を高める。また、ICTを効果的に活用し、児童一人ひとりの情報活用能力と主体的な学びを育成する。
基本項目	(1)「生きる力」の育成と多様な学びの充実 (2)深い学びとICTの活用による学習の質の向上
戦略Ⅲ：ボーダーレス	
重点目標	「12年間を通じた全人教育」の実現に向けて、小学校・中学校間の連携を深め、教科やクラブ活動など相互に連動した教育プログラムを展開する。社会に貢献できる人材の育成を目指して、小中高の教職員が連携し、児童・生徒の人間性を育む教育を継続的に推進する。 また、生活に根差した「生きた英語」を通じて、世界で通用する国際人としての素養を身に付けたグローバル人材を育成する。異学年・異国籍との交流から英語を活用することの意義を実感できるプログラムを提供する。
基本項目	(1)小中高の連携による全人教育の推進 (2)英語への関心を育み、実践的な言語力を高める指導の充実 (3)異文化体験を通じて、多様性理解と国際的視野を育む

戦略Ⅳ：地域社会	
重点目標	「地域に愛され、地域に貢献する小学校」の実現を目指し、自主防犯団体（ふれ愛ネットワーク）や地元企業と連携して、地域とともに児童の健やかな成長と学びを支える。地域の自然資源を活かした体験活動を通して、子どもたちに多様な学びを提供するとともに、学校の教育活動を地域に還元し、地域社会の活性化にも貢献する。
基本項目	(1) 地域社会との関わりの強化
戦略Ⅴ：入試・広報	
重点目標	各地域への積極的な広報活動を展開し、本校の教育の魅力を伝える機会を拡充する。加えて、地域の幼稚園・保育園と連携し、早期からの接点を構築することで、「なぎさブランド」への理解と信頼を深め、志願者数の安定的な推移につなげる。
基本項目	(1) 学校の魅力を発信する広報活動の推進 (2) 幼稚園・保育園との連携による信頼関係の構築
戦略Ⅵ：管理運営(ヒト・情報)	
重点目標	卒業生とのつながりを築く集いを開催し、将来的な同窓会の設立に向けた機運を高めることで、学校と保護者のつながりをより一層強化する。
基本項目	(1) 卒業生とのつながりを活かした同窓会設立への取り組み
戦略Ⅶ：財務基盤(モノ・カネ)	
重点目標	安定した財政基盤の確立を図るため、収容定員の最適化と収入の多様化・安定化に取り組むとともに、教育環境の質的向上をめざし、施設・設備への計画的かつ持続的な投資を推進する。また、学校の特色や児童・卒業生・教職員の活躍を積極的に社会へ発信し、支援の輪の拡大と寄付促進につなげる。
基本項目	(1) 収容定員の最適化と収入確保 (2) 施設・設備投資の計画的実施

建学の精神	教育は愛なり		教育方針	常に神と共に歩み社会に奉仕する
学校法人鶴学園のパーパス		×	法人局のパーパス	
人を想う、どこまでも。			人を想う、どこまでも。	

長期ビジョン	
教育	ボーダーレスに”学び方を学ぶ”力を育む鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅰ)教育、(戦略Ⅱ)研究、(戦略Ⅲ)ボーダーレス
地域	広島を支え、中四国を導き、日本を元気にする鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅳ)地域社会
経営基盤	挑戦し、変化を続ける鶴学園 主に関連する戦略 = (戦略Ⅴ)入試・広報、(戦略Ⅵ)管理運営、(戦略Ⅶ)財務基盤

4つの視点
☐ 交流/協力 ☐ イノベーション ☐ 持続可能性 ☐ 多様性/グローバル化

長期ビジョンを実現するための重点目標/基本項目(5年間)

戦略Ⅰ：教育	
重点目標	本学園の建学の精神及び教育方針にもとづいて社会に貢献する人材を送り出すため、学園が設置する各学校の連携により、”学び方を学ぶ”力を持つ人材を育成する。 初等中等教育において、広がる学力幅や多様多彩な非認知能力にも対応した一人一人の学びを豊かにする授業や体制づくりを推進する。
基本項目	(1)AI時代を生き抜く人材輩出に向けたキャリア教育の充実 (2)長期ビジョンに照らした初等中等各校への支援充実

戦略Ⅲ：ボーダーレス	
重点目標	国籍、性別、年齢、学校や学びの分野などを越えるボーダーレス化に対応した教学運営を実行できる体制を整備する。このため、異文化を理解し、国際的な視野を持って世界と渡り合えるグローバル人材の育成を目指して海外の教育機関等と連携を進めていくとともに、学園内の各学校が互いの枠を越えて、多様性を尊重した共に学ぶ環境を構築する。
基本項目	(1)国際交流活動の活性化 (2)学園交流プロジェクトの実施 (3)学校法人鶴学園同窓会の振興

戦略Ⅳ：地域社会	
重点目標	広島県に存在する学校法人として、建学の精神及び教育方針にもとづいて、地域の課題を解決する存在となるために、災害等の際には児童・生徒・学生の命を守るとともに、地域の安全・安心を確保する防災拠点としての役割を果たしていく。
基本項目	(1)地域防災拠点としての体制整備

戦略Ⅴ：入試・広報	
重点目標	本学園の目標は、建学の精神及び教育方針にもとづいて社会に貢献する人材を送り出すことである。そのためには、安定した財政基盤の維持が必要であり、なかでも、各学校における児童・生徒・学生確保は最重要の課題である、このため、小学校から大学院までの学校を設置する本学園の強みを活かした広報を実施し、学園及び各設置校のブランド力を高め、選ばれる学校となる。
基本項目	(1)鶴学園ブランドの定着と理念一体化 (2)学園設置校の広報支援と特色発信プロジェクトの展開
戦略Ⅵ：管理運営(ヒト・情報)	
重点目標	急速な少子化などの社会変化に対し柔軟に変化し、挑戦する組織体制を確立するため、適正な教員数・職員数を把握・検証した組織編成を行う共に、業務量の適正化を実施し、継続的に業務の効率化・合理化を目指す。 また、学園として各学校の現状の課題を解決するため、DXを活用しつつ、学校運営に係る改善改革を行うことができる組織及び人事を適切なものとしていく。
	(1)総合学園としてのグループ経営力強化に向けた学園全体のガバナンス体制整備 (2)戦略的な人材育成と組織体制の構築 (3)スマートワーク（効率的で柔軟な働き方）の推進 (4)デジタル技術の活用による業務効率化及び学園内連携の強化 (5)教職員の業務改革・提案力等の育成
戦略Ⅶ：財務基盤(モノ・カネ)	
重点目標	安定した財政基盤を持続させるために学納金収入の安定化と他の収入の拡大を目指す。特に、補助金、寄付金、研究に係る競争的資金、施設利用料等の増加に向けて各設置校と連携し具体的な収入増加策を策定し実行する。また、ICTインフラ、施設設備、人事など収支に大きな影響を与える情報を各設置校と適切に共有しながら経常収支、キャッシュフロー、資産の適正なバランスを維持することに努める。さらに、中長期キャンパス・マスタープラン策定に取り組み、同プランに基づく計画的な設備投資を進める。
基本項目	(1)収入機会の拡大と支出の適正化 (2)中長期キャンパス・マスタープランの策定及び運用

令和7年度理事会(2026.3.26) 長期ビジョン/第Ⅲ期中期経営計画 承認



学校法人
鶴学園

人を想う、どこまでも。